

隆国寺

但馬ぼたん寺 曹洞宗
布金山長者峰

幸のとり観音 霊場
但馬七花寺 霊場
関西花の寺 霊場第六番
近畿楽寿観音 霊場第四番
宝の道七福神 霊場但馬布袋尊



内庭園

花の寺ごよみ

つばき (3月下旬～4月下旬)

さんしゅゆ・ゆきやなぎ

桜 (4月上旬)

こでまり・れんぎょう・どうだん・もくれん
つつじ・はなみずき

ぼたん (4月下旬～5月上旬)

けまんそう・なんじゃもんじゃ・えご・やまぶき

山あじさい (5月中旬～6月下旬)

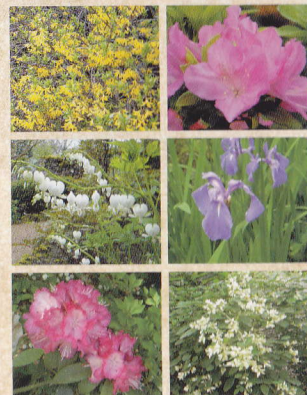
やまぼうし・かきつばた

沙羅 (6月中旬～7月中旬)

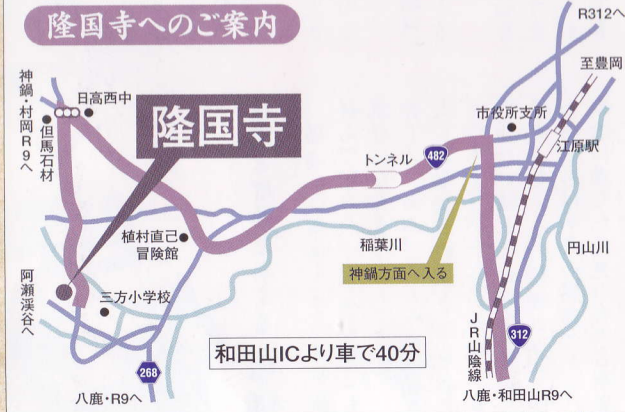
さるすべり・のうぜんかずら

紅葉 (11月中旬～12月上旬)

はぎ・うめもどき



隆国寺へのご案内



曹洞宗 隆国寺

〒669-5356 兵庫県豊岡市日高町荒川22
TEL.0796-44-0005 FAX.44-0307 <http://ryukoku-ji.jp>

隆国寺は、室町時代、山名の四天王・垣屋隆国公の菩提寺として開基された。実質開基と言われる光成公は、達明使節団の団長をつとめた策彦周良和尚より、天正四年（一五七六）に「祝岩」の道号を授かる。中国から持ち帰った牡丹を贈られ、それを本尊に供え境内に植えたという。元和九年（一六二二）に寺は阿瀬金山より現在地に遷された。その後、天保の大飢饉の時に寺の米でたすけられた人々が、境内に庭を造り、心を豊かにする「富貴の花」を開く牡丹園を再興した。以来「但馬ぼたん寺」と呼ばれ、現在は花の寺となり、四季の花々が仏さまを荘厳する。



ぼたん



つばき

初春のつばき、さんしゅゆ、桜に始まる百花繚乱の季節、初夏にはぼたん、つつじ、山あじさい、やまぼうし、沙羅、秋にはどうだん、もみじの紅葉と四季折々の花々が、仏さまの浄土を荘厳します。季節の花に、出逢えるかどうかはご縁ですが、心静かに境内を散策すれば、一輪の花にも必ず仏さまの慈愛を見つけることができます。自らの心の花を咲かせましょう。



山あじさい



沙羅



岸派の襖絵(本堂)

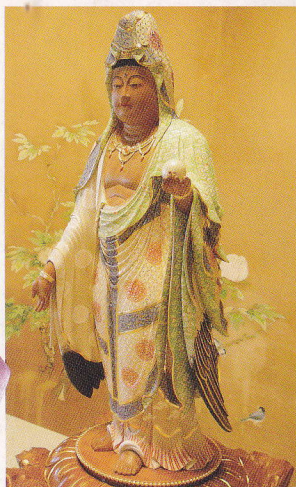
本堂内のふすま絵三十六面は弘化三年(二八四六)に岸岱・岸徳(連山)二人によって描かれました。
大らかな表情の虎溪三笑図、本尊を守る猛虎図、精緻な孔雀図など、見事な作品で県文化財にも指定されています。



岸岱 筆



岸徳連山 筆



子宝と幸せを運ぶ 幸のとり観音

こうのとりの観音さまは、手に「子宝」と「幸せの宝珠」を乗せ、いつでも飛んでいけるよう羽衣を身にまとっておられます。観音さまのまなざしにつつまれ、優しい心で手を合わせて自他の幸せを心静かに祈れば、必ずや幸せがまいります。



福德と智慧を与える 布袋尊

福福しい布袋さまの姿や屈託のない笑顔を拝んでいると、掌を合わすこちらまでが楽しい気分になります。
苦しみ、悩み、悲しみを除き、くだらない、大らかな「空」の生き方を教えてくれます。その大きな袋とお腹の中には、豊かな心と同様に、限りない福と徳がたまっており、求める者には惜しみなくその福德を分け与えてくれます。あふれんばかりの笑顔とともに。
私心に満ちた凡夫の我々も布袋さまと向き合うとき、真の長者になることができるのです。



本尊 聖観世音菩薩

本堂中央に祀られている聖観世音菩薩さまは、その大慈悲の心により、常に私達を観守り、念じさえすれば、いつでもここにようと救ってください。
「吾は仏にならずとも、生きとし生けるすべてのものを救わん」
この観音さまの利他の行願は、菩薩としての私達の生き方でもあります。
観音さまと向き合い、その心を自らに映し、利他の生き方を行ってゆくことは自らが観音さまになることです。

身も心も美しくなる

烏枢沙摩明王



ウスサマ明王は、一切の穢れや不浄を焼き尽くす炎の中に立ち、東司(便所)に祀られます。
東司(とうす)は、自分を生かすため命をいただいたものに感謝し、その命を生かすことを考える道場です。
素直な心で明王さまに祈るとき、浄不浄を離れて、心が清らかに整い、おのずから身心が美しくなっていきます。

健康長寿を祈る 楽寿観音

人々が楽しく元気に明るく年を重ねることができるようにとの願いをこめた楽寿観音さまは、「ほけ封」の観音さまとしても信仰されています。家庭内や社会の中で、人の心のわだかまりや障りを除き、不安や恐れ的心を取り払い、祈る人の心を穏やかに開いて、素直に仏さまの功德を受けとることができるようになります。

